

## 地域医療等対策特別委員会

開催年月日	平成29年 6月29日 (第17回)					
開催の場所	湖西市役所 委員会室					
開閉会時刻 並びに宣告	開 会	午前10時00分	委員長	高柳 達弥		
	閉 会	午前11時51分	委員長	高柳 達弥		
出席並びに 欠席議員  出席 8名 欠席 1名  〔凡例〕 ○は出席を示す ▲は欠席を示す ●は公務欠席を示す	氏名	出欠	氏名	出欠	氏名	出欠
	福永 桂子	○	島田 正次	▲		
	菅沼 淳	○	牧野 考二	○		
	土屋 和幸	○	二橋 益良	○		
	高柳 達弥	○				
	佐原 佳美	○				
	竹内 祐子	○				
説明のため 出席した者の 職・氏名						
職務のため 出席した者の 職・氏名	係 長	村越 正代	書 記	三浦 梨紗		
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

# 地域医療等対策特別委員会会議録

平成 29 年 6 月 29 日（木）

湖西市役所 委員会室

湖西市議会



〔午後10時00分 開会〕

○佐原副委員長 皆様、おはようございます。梅雨本格かと思いましたが、きょうもばらばらで、恵みの雨もしっかり欲しいところではありますが、新人事となりました地域医療等対策特別委員会の初会合を始めたいと思います。

委員長、よろしく願いいたします。

○高柳委員長 皆さん、こんにちは。きょう午後には公共施設マネジメントの説明会があるということで、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

医療・介護分野に精通される佐原委員長の後を務めさせていただき、役不足とは思いますが、皆さんの御協力いただきまして、務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

今、新聞とか報道でございますが、その中で、先日27日に厚生労働省の国民生活基礎調査によるということで、そういう調査の発表がされましたが、介護が必要な高齢者を65歳以上の高齢者が介護する老老介護の割合が高まっているというようなことで報道されておりました。要介護認定された人と介護をする同居人が、ともに65歳以上である老老介護世帯は55%になったと。60歳以上同士の介護ということ70%、75歳以上を介護する世帯は30%ということで、老老介護の割合が高まっているというのが、数字的にもあらわれてきたということでございます。

そういうことで、介護の負担を軽減する生活援助サービスの拡充などが今後、課題になるということでありました。そういうことで、まさに私たち委員会のテーマに通じるものと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以下、進めさせていただきますので、座って説明させていただきますので、よろしく願いいたします。次第に入る前に島田委員が、きょうは欠席ということですので、よろしく願いいたします。

お手元のほうに次第がございますけども、今後の計画についてということでありますけども、2枚ほどで、私のほうで地域医療等対策特別委員会次第というのが、もう1枚、2枚あると思うんですね、ありますけども、それで進めさせていただきたいと思っておりますけども、3枚目ですかね。今後の計画の後に、それです。はい。

細かくは、これでちょっと説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

委員会に与えられましたテーマというのは、今さら言うまでもありませんけども、湖西市の多世代にわたる地域医療、介護等のあり方についての調査研究をするということでございます。それで、今後の計画につきまして、一番目の平成28年度の委員会調査、意見交換会の整理、確認ということでございますが、前委員長の佐原さんがまとめていただいておりますので、それをちょっと説明させていただきたいと思っております。

次のページにありますけども、それをお願いいたします。

○佐原副委員長 1という番号が振ってあるのです。よろしく願います。

昨年、9カ所と意見交換会をね、大変皆様にタイトなスケジュールで御足労願って意見交換会をしたものをまとめました。皆さんでまとめたのは、かなり項目も要約した形で全員協議会で報告したのもありますけれども、ちょっとそれよりも、自分のメモを中心にまとめたものです。それぞれの9月14日の浜名病院、湖西病院という順番で、やった順番で参加者等と書いてあります。それで、私たちがお願いしたのは、一番目には、そこで実施している内容、サービスの内容を教えてくれということと、でも、それを書いたら切りがないので、それは皆様も資料をいただいているというところではしょって、二番目の抱えている課題、そして、三番目には地域医療についての思いとか、行政に求めるものという形で意見交換しましたので、その上のタイトルどおりでまとめてみました。

湖西病院、浜名病院におきましては、皆様、御存じのように医師不足、看護師不足とか、それから市がリーダーシップをとって、もっと医療と介護の連携を図ってほしいという、そういう御意見がありました。それとか、湖西病院の院長が言ったのですけど、湖西病院の地域医療についての思い、行政に求めるものところでは、寺田院長が三番目として、退院患者の情報を、在宅でみとった死亡診断書の数は、本当に数件だったと、市内の病院と特養でみとれるキャパの積算をして、市が、どのように地域で本当にみとりまでできるのかという、そういうグランドデザインを市が示してほしいと言われたのが、やっぱりそういう数字的な裏づけの調査もしなきゃいけないなというのを言われ

ております。

そして、次のページに、両面刷りになってますので、2ページ目にいきますと、医師会というより、浜名医師会湖西医会というところで、湖西医会の伊藤健会長が来て、いろんな思いをお話ししていただきましたけれども、健康増進課が、かなり地域包括ケアシステムの中ではいろんな、国がプログラムの、こういうのをやりなさいと言ったときに、表を見てもらうと、前もった資料、この健先生が持ってきた資料ですけれども、私も皆さんに差し上げてある資料は、ほとんど医会に委託しているんですね。でも、その委託料というのが、15万円で何もできない。また、健先生と牛田先生は認知症の研修を受けてもらったり、もう一人の先生が受ける予定というなお話がありましたけれども、実質、動けていないというお話で、先生もちょっと半分怒りがあるようなお話でした。

次が、白萩の地域包括支援センター、たくさんの、その地域包括支援センターの主任ケアマネ、それから、保健師や社会福祉士等の現場の声を聞いて、それこそ虐待している人が精神障害や知的障害の人であって、虐待している加害者も要支援者であるという話、そこをやっぱり全体として市もフォローする姿勢が欲しいというお話とか、やはり委託料が白萩から、特養から400万円ほど補填しての経営なので、自分たちのやっている仕事量と思うと、数値的な量と思うと足りないというお話になりました。

それから、浜名歯科医師会のほうでは、雄踏と浜北が浜松に抜けちゃって、全部の会員が27名に減少しちゃったので、本当に学校の歯科検診とか、そういう委託事業をするのにも手いっぱいだというお話でした。あと4件、未加入の歯医者さんもあるので、会員減少というのが大きいと、それから、湖西市は虫歯は少ないけれども、歯周病の大変多い地域で、年代ごとの切りのいい60歳からでしたかね、私も受けてないと、電話が市役所から入りましたけれども、無料クーポンを配っても受診率が悪いということが課題ですというお話でした。なかなか自分たちの訪問歯科診療についても行政がいつときよりも力を入れてないんじゃないかという一番右側の列のところですけど、前はいろんな申込用紙があって、それから、その人の病気の既往歴等があって、お金もついたらけれども、今は報告書すらなくなって、訪問歯科診療も窓口に行った人には紹介するだけで、市が手を引いているという感があるというお話をしました。

あと8020、80歳で20本の歯を保持、自分の歯を保持しているという推進委員というの、どんどん人が減っていて、今、どういう活動になっているのかが不明と、とにかくちょっと歯科医療に関しての行政の手薄というのを嘆かれていますように感じました。

そして、一番は災害時の検視のときの場所を、浜松なんかはどこに遺体を安置して、どこの歯医者さんは、どこに行きなさいというのが決められているのに、湖西市は、そういう話し合いが一切ないと、警察とも連携しなきゃいけないということでした。

それから、グループホーム一円荘は小規模多機能というのが要支援とか、介護1・2という軽い人たちが多くて、ここの中でも介護1の人たちが22人利用している中で9名という、約半数近い人たちが軽い人たちで、本当にまるめという必要なだけデイと、それから訪問のホームヘルプサービスとデイサービスとショートステイという泊まりを回数制限なく1カ月幾らという、その人の持っている介護度目いっぱいを使ってもいいという形で契約するサービスなんですけど、何回行ってもいいということなんで、1日に薬の管理の人なんか2回も行ったらガソリン代だけでも採算が合わない。とにかく、この小規模多機能のお金をふやすことを考えてほしいというお話があり、また職員不足で無料の託児所を設けたら職員も来るようにはなったけど、定着率は低いということでした。

そこで行政への言いたいことで、一円荘が一番言われたのは、湖西病院の在宅支援室等との連携が一番悪くて、突然の退院とかがあって困るというお話が印象的でした。あと地域包括ケアで在宅介護、介護と言うけれども、この方たちの、在宅介護の人たちを365日、デイに来ている人も2名あるし、週1だけという人も、ここには書きませんでしたけど、週1だけ休みで、あと毎日、365日の週1だけを休むという人も4人いるしというようなことで、在宅とは言っても結果的にこうやって施設に預けているんで、要介護3から5の人を家庭で見えていくというのは大変なこと

じゃないかというお話でした。

そして、まんさくの里は、老人保健施設ということで、4ページ目になりますが、通所のデイケアと短期入所と入所というところで、いろんなデイケアはワンコイン500円の体験だとか、あとはショートステイと言わずにリハビリ合宿とか、あとは入所している人たちに対して、認知症が進まないようにとかいうことで、まんさく学校というようにいろんな取り組みをしているけれども、地域の人が案外知らないよということとかでした。

あとは医療を求められたり、みとりを求められるけれども、やはりみとっていくには、いろんな家族の過ごしてもらうスペースだとか、家族への職員の気配りも必要だし、いろんな意味で手が足りないけれども、国はそういうものも求めているし、あと強化型という、どんどん退所させなさい。在宅復帰させなさいというのを国は言っているけれども、採算が合わない。結局、帰したら、次に入ってくるまでのロスタイムで減収になるということで、現行の復帰率30%から40%の在宅復帰率でまんさくは、今、稼働しているようですけども、これでいかにざるを得ないというお話でした。

あと薬剤師会は、浜松の薬剤師会の野寄副会長さんという人が中心になって、湖西市としては塩野さんという古見薬局で、名刺を拝見すると在宅介護委員という、浜松市薬剤師会の中の在宅介護委員という、まだ湖西に来たばかりですがという方のお話を聞かせていただきました。

ここも大変に委託料が少ないので、浜松ではダニアレルギーだとか、揮発性の検査とか、保健室や理科室の薬品の管理等も委託を受けているけれども、湖西市はもうプールの水の検査しかできていないということでした。あとは災害時の薬の備蓄の調査とか、そういうものも全然情報共有というものも湖西市ともしていないというか、湖西市から何の問いかけもないということをおっしゃっていました。

最後の交流の意見交換会には、特養、光湖苑です。そこも職員が来ないという、実習生すら来なくなってきたということで、職員不足、そして要介護3以上の入所というように法改正が平成27年からでしたかね。あって、とにかくまだ光湖苑は待機者が何十人かいるけれども、浜松のほうなんかは空きベッドが出ているところもあって、この制度というのは本当にいかなものかと。

それから行政に訴えたいこととしては、軽い人でも特例ということで行政の判断で入所させてもいいんですけど、湖西市は大変その基準が厳しくて、軽い介護1・2の人たちを入所させられないということをおっしゃっていました。それとか、ショートステイのベッドを入所のほうに転換したいと、待機者解消等のために。でもそれは高齢者プランにないからと、即刻却下されたというような、経営的な。ここは在宅というよりも特別養護老人ホームという入所のことを中心にお聞きしたので、経営のお話が多かったと思います。

それと、もちろん職員不足、それと地域包括の委託料も右側の行の一番下ですけども、4人配置すればいいところを主任ケアマネとか保健師とか社会福祉士、だけでも仕事量からいって、一人余分に5人に増員していると。だけれども施設の中で中核者が、やっぱりそういう重要な部門に来ちゃっているから、人件費も高いので、とても採算が合わないというお話がありました。

あと、これらをまとめて、12月5日に健康福祉部へ体制の不備、予算不足、医療・介護連携支援センターの早期設置、担当部署の明確化という、この四つの大きな見出しがやはり皆さんから上がった内容ですよということで、意見交換を行いました。大方はちゃんとやっているという健康福祉部の回答で、現場の人たちの感想とずれがあるなということをおっしゃいました。この細かい意見交換の内容というのは、ここに添付されていませんけれども、皆さんも去年のつづりがあると思いますが、全協でも出していますが、全協で報告したり、皆さんにも言っていると思いますが、ちょっと添付なかったね。まとめたものがあります。それをまた、御自身の資料で見たいと思います。健康福祉部との意見交換の内容です。以上です。

○高柳委員長 ありがとうございます。

ただいま平成28年度に意見交換会をいたしまして、各事業所からの抱えている課題、それから地域医療についての

それぞれの思いということを佐原委員がまとめていただいて、発表していただきまして、ありがとうございました。

これから、委員会として進めていくに当たりまして、このテーマが発表されたことをちょっと頭に置いていただいて、これからの地域医療、介護のあり方ということの進める参考にしていただきたいと、そんなふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初に戻りまして、次第のほうの2ということで、平成29年度以降の調査研究の進め方ということでございますけど、先ほど、最初に委員会のテーマということで湖西市の多世代にわたる地域医療、介護のあり方についての調査研究ということですが、その前提というか、テーマの副題のような形ですけど、ここに書いてありますけど、湖西市民は子供からお年寄りまでが最期まで健康で、できるだけ住みなれた地域で安心して暮らせるよう市民、医療機関の役割をどう構築するかと、こういうことをこれから調査研究していかなければならないのじゃないかなと、そんなふうにテーマに対して感じておりますので、ここにちょっと書かせていただきました。

それに当たりまして、そういうまず、前提といたしまして、皆さんが同じ考え方ですか、そういうことに統一していただくために、ここにあります地域医療とは、どういうものかということとちょっとここに書いてございますけど、ちょっと読みますけど、地域医療とは、疾病の予防や治療、退院後の在宅における医療、療養、介護、育児など、幅広い分野を市民と医療機関、行政、企業、その他、関係機関が連携して行う総合的な医療であるため、今後どのように調査研究を進めるかということで、地域医療に対しての考え方に対して、今後どのような調査研究をするのかということで、地域完結型がそうだと思うんですけど、そういう医療を目指すような体制、整備をしていかないかんのじゃないかと思っておりますけど、そんなことで進めていかなければならないんじゃないかなと思っております。

そういうことで、今までいろいろお話がありましたんですけど、特に湖西病院の関係は、医師とか経営の改善等あって、いろいろなことを病院に対して言われておりましたんですけど、それに対して、特別委員会としては、やはり湖西病院については中核的な病院として、地域医療に対して、どのような、湖西病院は役割を担うかと、また、どのような、湖西病院は働きをするべきかと、そういう検討が特別委員会のほうでの検討事項であって、病院の経営とか、医師の関係は、福祉の常任委員会のほうでやってもらう事項ということで、そこらはちょっと分けて、これから考えていきたいなと、そんなふうに思いますので、お願いをいたします。

それで、この中の、次第の次をめぐっていただいて、ちょっと医療体制というのがありますが、地域医療体制の確立ということで、一応、地域医療は基本になっておりますけどね。こんな形で体制は、在宅サービスとか施設の居住、在宅サービスにはこういうものがありますよと、地域ケアで、こんなありますよと、施設は居宅で介護補助があると、医療機関のかかわり、機関の役割というのは、こういうことですよと、市民の役割はこうだということで、大枠な医療体制の確立は、ここに、こういう形になってますということを見ていただきたいと思います。

それで、地域医療を理解というか、前提するためには、静岡県の地域医療構想というのが、七次の構想があります。それから、静岡県の保健医療計画というのも七次計画がございます。このことで、県がこういう、全体として、こういうことを考えているのに対して、市は、こういうふうに考えていかないかなというような形をしていかにゃいかんと思っておりますので、まず、医療構想と保健医療計画についての概要、抜粋ということで、載せてありますので、これを見ていただきたいと思います。

地域医療の構想の基本理念ということで、医療と介護の総合的な確保が必要ということで、特に重要なところは、ちょっとページ数が多くなるので字が小さくなってございますけど、ちょっと濃くしてあるところが、ちょっと重要というような形になっておりますので、全体は、あとまた、読んでいただければと思いますけど、主なところだけということで、その総合的な確保のためには、地域においては、医療、介護を総合的に確保するためには、効率的、かつ質の高い医療提供体制の構築と、それと地域包括ケアシステムの構築、この両方を車の両輪として進めることが、この地域医療に対しては重要ですよということがうたわれております。

それから、地域医療の医療提供体制の構築ということですが、地域医療構想ではということで、将来の病床の機能

区分、必要な病床数、それで在宅医療等の必要量、構想に向けての病床の機能分化や連携の推進という、こういうことを将来に向けての構想も湖西市としても必要じゃないかと、それから、将来の医療の供給体制というのは、どういうふうにしたらいいかということで、高齢化が進むので慢性的な疾病とか、複数の疾病を抱える患者の増加に対して急性期の医療から退院一日の支援、それから、在宅医療、在宅の歯科の医療、介護までの一連のサービスを切れ目なく総合的に確保する体制整備が必要だということで、県の構想になっておりますけど、湖西市もこういうような一連のサービスが、総合的な一連のサービスが湖西市の中でも必要ではないかということでございますので、そういうことをお願いいたします。

じゃあ、保健医療の状況は、どんなことかということで、大事なんで、県のほうは省きまして、人口構造といたしましては、湖西市では平成17年、2005年の6万994人をピークに減少に転じ、平成22年から10年ごとに減少数が2,500人減、4,000人減、5,000人減と徐々に加速すると推計されております。

そういうことで、県としても団塊の世代が後期高齢者となる平成37年、2025年には静岡県県の県民の5人に1人が75歳以上になると予測されておるということでございます。

そういうことで、高齢化の状況を見ますと、湖西市では75歳以上の高齢者は7,394人ということで、2017年現在、12.3%が75歳以上だということでございます。その前の高齢者60歳以上については、同じく平成29年3月には過去最高の26.2%、1万5,815人ということで、平成26年度より2.5人と、高齢化率が上がっているということです。先ほども言いました75歳以上は、こんな状況ということで、今、説明させていただきました。

それで、医療の資源ということでございますが、これはいろいろありますけど、湖西市では平成29年4月現在では、病院数は2施設、病床数は373床で、療養病床が88床となっております。それから診療所については、平成27年4月1日現在では、湖西市の一般診療所は26施設、平成29年4月1日現在です、診療所。歯科の診療所は、これも平成27年4月1日現在では20施設が歯科の診療施設でございます。今のところで湖西市の一般診療所のところの27施設となっておりますけど、26施設ということで、後のところに病院とか診療所の表がございますけど、野里医院が廃業したということで26施設になりますので、お願いいたします。

そういうことを頭に入れた中で、一応、静岡県の医療介護の資源の概況ということがありますが、基本的なデータがあります。これは高齢者の状況、要介護の状況、それから、医療関係、介護サービスの関係というのか、県の表がございますけど、湖西市の状況って、ちょっとわかりませんもんで、湖西市の医療資源は、どうなっているかというの、今後こういう表に基づいて調べていかないと、これからの医療・介護のあり方を考えた上では、こういうデータがないと、湖西市のデータがないとつくっていけないかなと思って、これからの、つくる必要があるんじゃないかなということで、こういうのをしております。

次に3ページへいきますと、保健医療圏ということで、県のほうで一応、二次医療圏というような形で医療圏を決めております。その医療圏に対しては、どのようなことで進めていくかということが載っておりますけど、二次医療圏としては、湖西は西部ということで、構成市町は浜松市、湖西市で二次医療圏は、西部の二次医療圏ということになっております。そういうことで、西部全体で浜松を含めた中で、この数字が載っておりますけど、そういうことで見ていただきたいと思います。構想の内容につきましては、西部の医療圏の構想としては、将来の医療供給体制の姿はどうあるべきかと。それから、2025年の団塊の世代の医療需要及び各医療機能の必要量はどうかと。それから、あるべき将来の医療供給体制を実現するためのそれらの施策はどうかと、こういうことが、検討するという事になっております。

それじゃあ、その医療機能というのは、どういうものがあるかということ、高度の急性期機能と急性期機能、回復期機能、慢性期機能、この四つの機能があるもので、それぞれそういう機能に対して、どういう対応をとっていくかという必要があるということで、こういう区分けがしてございます。

2025年の病床数と、これは予測です。それと平成25年での病床数が載っております。それから、在宅医療の必要量

と、平成25年での必要量ということで、西部地区で載っております。

それから、地域医療の支援病院ということで西部地区ではということで、六つあります。浜松医療センターから遠州病院まで六つの地域医療の支援の病院が西部地区であるということでございます。

それから、位置づけというんですかね、二次保険医療圏の西部地区での位置づけということで、呼び方ですけど、二次保険医療圏というのが湖西市は西部に入っております、それから二次医療圏というのは、西遠を単位として湖西市も入っています。

それから、周産期医療地域についても、西部地域ということで、それから、精神科救急医療というのも西部地域に入っているということで、こういうこといろいろ、これからそういうくくりで、いろいろ対策がとられているというか、そういうことですので、これから、そういうのを考えていただきたいなと思います。

それで、最初にありました、西部の二次保険医療圏の構想の区域ということでございますが、この全体がありますが、湖西市の場合の人口構造の変化の見通しということで、湖西市の平成27年、2015年10月現在では人口は5万9,789人というのが、平成22年、2010年から平成37年の団塊の世代向けには4,386人減少し、5万5,721人になるということなんです。

湖西市の65歳以上の人口は、平成22年から平成37年、2025年に向けては3,341人ということで、65歳以上の人口が増加していくということで、1万6,189人にふえるということになりまして、平成52年、2040年には1万8,030人まで、65歳以上の人口の増加が見込まれるというようなことの予測でございます。

4ページへいきますと、それから、さらに75歳以上の人口というのを見ますと、4ページですけど、平成22年から平成37年に向けては1,643人増加して、その後、平成62年をピークに減少するというので、75歳の人口の状況でございます。

それで、今度、現状と課題ということで、いろいろ書いてございますが、一応、湖西地域についてですけど、湖西地域等においては、医療機関が少なく、産科等専門医療や救急医療が薄いなど、医療の地域格差が課題となっていると、地域医療の中で言われているということです、二次医療圏の中で。

二次の救急医療のほうは、西遠の救急医療圏域での7病院では輪番制で対応しております、湖西地域等の県境では、浜松市中心部の第二次、第三次の救急医療圏への搬送のほか、愛知県の第二次救急医療機関への搬送もあるということで、第三次の救急医療は、浜松の医療センター、聖隷三方原病院、聖隷浜松病院ということで、二次救急医療が対応しているという状況ということでございます。

それから、周産期医療というのが、ずっと書いてありますけど、湖西地域などは、正常分娩を担う医療機関が全くない地域であり、こうした地域の周産期医療の確保が課題となっているというようなことでございます。

入院患者の流出入ということでありますが、主な、この地域の中の流入は中東遠のほうからの区域が入っておりますけど、隣接する愛知県とは同程度の流出入があるというような、この入院患者の状況でございます。同程度の流出入があるというふうな状況でございます。

それから、あと在宅医療の状況というのがありますが、抜かしていきまして、医療状況の変化というのがありまして、今の、こういういろんな状況に、高齢化の状況を見た中で、聖隷三方原病院では高度救命救急センターに指定をされたら、平成27年3月ということで、高度救命救急センター。すずかけセントラル病院は、回復期のリハビリテーション病棟を50床設置しております、これ平成27年です。

5ページにいきますと、十全記念病院は回復期のリハビリテーション病棟を46床。それから、地域包括ケア病棟42床を平成27年8月に設置しております。

それから、浜松の労災病院は、包括ケア病棟を52床、平成27年9月に。天竜すずかけ病院は、回復期リハビリテーション病棟55床ということで、今までの、この高齢者に向かつてのいろんな対応をすることで、それぞれの病院でいろいろこういうことで、いろんな施設を設置しておりますけど、湖西の人も、こういう病院にお世話になら

なきや湖西ではやっていけんもんですから、こういう病院にお世話にならなきやならないんじゃないかなと、そんなふうに感じております。

それから、平成37年の必要病床数と在宅医療等の必要量ということで、平成37年での必要な病床数は、どれだけになるかということで、これ医療圏の中では書いてありますけど、湖西市も、この中である程度、どのような、どれがどれだけ病床数が必要になるかというのがありますし、あと平成37年の在宅医療等の必要量についても、湖西市の必要量というのは、どれだけぐらい必要になるのかというのが、圏域全体のはありますけど、いろいろな高齢者の状況を見て、必要量とか病床数というの、ある程度検討していかならんんじゃないかなと、そんなふうなことで、一応、載せてございます。

それから、今度、2次医療圏内の地域の死亡要因の上位別の対応状況ということでございますが、一番死亡率の高いのがんで、それから2番目が急性心筋梗塞というような順番になっているらしいんですけど、がんに対しては、地域がん診療連携拠点病院というのがあって、これが7医療機関。

それから、あとターミナルケアというのが、聖隷三方原病院、診療所が42、薬局が135というふうなことで、今なっている状況です、対応で。脳卒中の関係は、救急医療ということで7病院がありまして、あと輪番制で受けてるといふふうな、救急医療を受けているというふうな形で、身体機能を回復させるリハビリテーションについては、12病院がありますということです。それから、生活の場における療養支援については、54診療所があるということです。それから、急性の心筋梗塞については、その急性心筋梗塞の救急医療を担う医療病院ということで、8病院ありますが、市立の湖西病院も8病院の中に含まれておるといふことです。それから、糖尿病の専門医療、急性増悪時治療を担う医療機関も11病院ありますが、市立湖西病院も、その中に担っているということでございます。それから、ぜんそくの専門治療を担う医療機関というのは7病院の中に市立の湖西病院も含まれている状況でございます。ということで、がんとか脳卒中については、浜松のほうへ行かなければならないけど、今言った急性とか、急性心筋梗塞、糖尿病というのは、一応、湖西病院にほうで対応できるなという状況になっていると思います。

6ページへいきますと、精神科医療機関ということで、精神科病院が7病院、精神科のある病院は10病院、精神科を標榜する一般診療所は29診療所ということで、それ以下ありますけど、湖西市での受診者数は566人おるといふことで、湖西地域には入院医療機関がなく、通院も限られているような精神医療の状況ということでございます。

それから、救急医療については、湖西地域は、休日、昼間の在宅輪番制を実施しておるといふことでございます。

あと、二次救急医療は、西遠医療圏で7病院で輪番制でやっておるといふことでございますが、浜松の中心部の第二次救急医療機関から遠隔にある湖西市では、市立湖西病院、浜名病院が二次救急医療機関を補完した対応をしているということでございまして、また、浜松市中心部の二次・三次医療機関への搬送のほか、愛知県の第二次救急医療機関への搬送もしているというふうな状況でございます。三次の救急医療というのは、上ですけど、3医療センターほか2病院があるということで対応しているということです。

それから、災害時における医療につきましては、医療圏の状況が書いてありますけれども、湖西市は、市立湖西病院前の救護所、浜名病院前の救護所、新居幼稚園救護所で災害時には対応するというものです。

それから、周産期の医療についてですが、これは正常な分娩を担っている医療機関は6病院、6診療所、3助産師ということですが、あとハイリスクもありますけど、湖西地域は、正常分娩を担う医療機関がないというふうな状況となっております。

それから、小児医療、小児救急については、高度で専門性の高い小児重症救急は、聖隷三方原病院のドクターヘリによって県立こども病院のほうへ搬送されるということです。

それから、在宅医療につきましては、書いてありますけど、湖西市では、地域包括ケアシステムの構築に向けて、生活支援体制や地域包括支援体制のあり方について、地域ケア会議を設置して、整理、検討をしているということで、医療圏の構想の中には書かれております。

以上が、地域医療構想と医療計画の中の概要等について抜粋して、説明させていただいたんですけど、これらの中を、二次医療圏の中の全体のこの中で、湖西市が、こういうふうになってますということを、一応、頭の中に入れていただいて、湖西市の地域医療・介護のあり方はどうすべきかということ、これから検討していかならないんじゃないかなと、その意味で一応資料をまとめさせていただいております。

それで、別のほうに湖西市の、表になっておりますけども、医療機関、介護施設の状況ということでありますので、市立病院、湖西病院の診療科目、それから浜名病院の診療科目等について、病床数等、載せております。

あと、市内の診療所ですね、診療所が26ありますけど、それぞれの診療所でどういう診療科目を請け負っているかということで、一応載せておいていただきました。

それから、2ページでは、歯科診療所ということで、これ幾つあったかな診療所、ここに書いてございますので、見ていただいて。

それから、また医薬の取り扱いと、薬局についても、どういふ薬局が湖西にあるのか、市内にあるのかということで、一応、調べさせていただきましたのでお願いいたします。

それから、4ページには、介護サービスの状況ということで、介護老人福祉施設には、どんな施設があつて、定員がどれだけのすかとか、あと介護保険外の施設としては、どういふところがあるかというようなこと、あとグループホーム、定員がどうかと。小規模多機能の施設はこうですと。訪問介護の施設は、どういふところがありますかと、それぞれの定員というんですかね、そういうのがあります。通所介護についても、一応、どういふところが通所介護を受けておりますということで、市内のを調べさせていただきました。

それから、また地域の密着型の通所介護というのもありまして、どういふのはどこで、どういふ施設が請け負ってますということで、定員がありますけど、デイサービスすずというの、ちょっとわかりませんので、これ鷺津にあるんですけど、一応、定員数がちょっとわかりませんので書いてございません。

あと、訪問看護、ショートステイとかということで、それぞれどういふ定員数で受け入れしてるということで載せさせていただきました。定員の中に、あと書いてありますけど、利用者総数という形で書いてあるところもありますので、そんなことで見ていただければということです。

あと、関連して湖西市の社会福祉協議会については、地域福祉の推進ということで、各地域の地区福祉会があるということと、あと介護サービス事業として居宅介護支援とか、ケアプランの作成とか、訪問介護ヘルプ、訪問入浴介護、通所介護、障害者総合支援と、こんなことを福祉協議会ではやっておるということと。あと湖西市の地域の包括支援センター、4カ所ありますけど、この中では主任ケアマネジャー、社会福祉士、保健師等3職種、それぞれ専門分野のものが互いに連絡をとりながら高齢者の相談、支援を行っているということで、4カ所がございます。

そういうことで、見ていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それをあわせまして、それを踏まえて今年度29年度には、どういふ、この委員会として調査研究をしていくか、それから、どういふように調査を進めていくかというようなこと、また視察、先進視察も、どうしていくかというようなことについて、きょう、ちょっと計画のほう、打ち合わせしていただきたいなということで、年間の表というのがあったと思うんですけど、どこにあったかな。最初のところにあるんですね。それを見ていただいて。

それで、今までののが平成29年5月までですかね、12月まで去年つくってあつて、12月に最終報告提出、提言提出ということで、12月定例会というような形の予定になっておりますけど、一応、委員会としては平成29年、平成30年、一応、平成30年はわかりませんが、2年ぐらいでやるというふうな形のほうになっているような形なものですから、2年として考え、計画を考えていかならないんじゃないかなということで、そう考えますと、この表の中で一応、平成30年度の12月には、同じような最終報告、提言提出、12月定例会というような形に最終は持っていかないかということの中で、それ前にはどういふように進めていくかということですけど、要するに、一応、自分の考えとしては、まず平成29年度は医療・介護の現状をある程度把握して、どういふふうに進めていかな、この医療・介護のあ

り方、どうやっていかならんかということも含めた中で、現状の把握をしていかにゃならん年ではないかなということ考えております。

差し迫って、議会の、これ報告会のほうが、もう10月ですね、10月にやる予定があるということで、10月にあるということで、それまでに、それでもう8月の中旬には、もうテーマを決めて、どういうことを発表するかということをしていかないというような予定になっておるといことで、委員会の内容の進め方と報告会のことについてのあれも、両方合わせてやっていかならんということ、本当に詰まっちゃうと思うんですけど、そういうことで、とりあえずは、まず日程的に、今すごい、どこのあれもタイトになっちゃっておるもんですから、とりあえず7月とか8月、まず月に1回は日程こなしていかなかんじゃないかなというふうな形で、いかなきゃよかないんじやないかなって思うんですけど、そこら辺はどんなもんでしょうね。

暫時、休憩させていただきます。

午前10時56分 休憩

---

午前11時47分 再開

○高柳委員長 再開いたします。

それでは、平成29年度の調査研究の活動計画ということでございますが、前年度の未調査であります障害者関係ということで、浜名学園について調査をしたらどうかということで、一応、障害者の調査として浜名学園を実施することによってよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○高柳委員長 日程については、これから調整させていただきます。

浜名学園での調査に出席していただける方は、スタッフと保護者の方について、一応、この調査のときに、できれば出席していただくような形で、浜名学園と調整していきたいということでお願いいたします。

それから、平成29年度の調査研究ということでございますが、きょういろいろ基本的なことの、一応報告というんですか、ことをさせていただいたんですけど、これをもとに、さらに掘り下げて、地域医療がどうあるべきかということ、それぞれの皆さん方に考えてきていただいて、いろんな意見交換を勉強会という形でしたらどうかということですが、どうでしょうかね。

よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○高柳委員長 ではそういうことで、次回のほうはそういう内容で、していきたいということでお願いいたします。

それにつきましての日程については今の案としまして、7月10日9時半という案でございますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○高柳委員長 そういうことで決定させていただきます。

委員会を閉会いたします。

○佐原副委員長 じゃあ、きょうはお疲れさまでした。

また、きょうのたくさんの資料を読み込んで10日に、また、よろしく願いいたします。

〔午前11時51分 閉会〕

湖西市議会委員会条例第28条第1項の規定により署名する。

委員長 高柳 達 弥